

長 崎 県 観 光 動 向 調 査 (平成 29 年 4～6 月分)

● 主要指標

平成29年4～6月

	対象 施設	延宿泊客数 利用者数	H29-H28 同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	160	1,178千人	+ 23.6%	+ 225千人
主要観光施設	27	2,461千人	+ 32.7%	+ 607千人

	主要宿泊施設 客室稼働率	前年同期比 (ポイント)
4～6月累計	65.9%	+ 10.2
4月	65.7%	+ 8.4
5月	71.9%	+ 14.3
6月	59.9%	+ 7.8

● 概況

- 主要宿泊施設の宿泊客数は、昨年が平成 28 年（2016 年）熊本地震の影響により宿泊客数が大幅減だったこと、また、前期は工事等により休館していた複数の大型施設が、リニューアルオープンしたことなどにより、4～6 月期全体では対前年比+23.6%と持ち直し、四半期としては平成 28 年 1～3 月期以来 1 年ぶりの対前年増となった。特に昨年地震の影響を最も受けた 5 月は、ゴールデンウィーク後半が 5 連休と日並びがよかったこともあり、客室稼働率も対前年比+14.3 ポイントと大きく持ち直した。
- 主要観光施設の利用者数は、昨年熊本地震の影響を大きく受けたグラバー園や長崎原爆資料館、出島、ハウステンボスなどの大型施設の利用者数が回復してきたことなどにより、4～6 月期全体では対前年同期比+32.7%と主要宿泊施設同様、1 年ぶりに対前年増となった。特に、昨年地震の影響により大幅減となっていた 5 月は、ゴールデンウィークが天候に恵まれ、日並びも良かったこともあり、回復が際立った。個別の施設では、「ジブリの大博覧会」の開催効果で前年同期と比べ約 3 倍の利用者数となった長崎歴史文化博物館や、映画「沈黙－サイレンス－」の公開効果が続いた遠藤周作文学館の伸びが目立った。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

昨年は熊本地震の影響が大きかったが、グラバー園や長崎原爆資料館、出島などの入場者数や国内外の宿泊客がほぼ持ち直し、また、4月末に休館していた施設のリニューアルオープンもあり、4～6月期全体の宿泊客数は1年ぶりに増加に転じ、対前年同期比+27.4%と大幅増となった。特に昨年激しく落ち込んだ5月の増加が際立った。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

ハウステンボスの入場者数をはじめ、団体客を中心に宿泊客も熊本地震の影響からほぼ持ち直し、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+19.8%と1年ぶりに増加に転じた。特に昨年落ち込みが大きかった5月の回復が際立った。

【平戸・松浦ブロック】

松浦地区は、ビジネス需要が5月まで好調だったものの、昨年6月の大幅増の反動減が響き対前年減となった。一方、熊本地震の影響があった平戸地区は、休館していた施設がリニューアルオープンした6月に著しく宿泊客が伸び対前年増となった。ブロック全体の4～6月期の宿泊客数は対前年同期比+7.9%と1年ぶりに増加に転じた。

【諫早・大村ブロック】

熊本地震の影響から団体客が持ち直したことや、ビジネス客の増加が見られたことなどにより、4～6月期全体では対前年同期比+8.3%と1年ぶりに増加に転じた。

【島原半島ブロック】

熊本地震の影響が最も大きかった地域であるが、一部施設の休館による影響はあるものの、地域全体としてツアー客や団体客が持ち直し、4～6期全体の宿泊客数は対前年同期比+31.1%と大幅増となり、1年ぶりに増加に転じた。

【五島ブロック】

熊本地震からの回復に加え、個人客を中心に集客が堅調に推移し、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+24.4%と大幅増となった。特に集客が好調であった4月の増加が際立った。

【吉岐ブロック】

5～6月は対前年増であったものの、昨年のツアー客数増の反動減があった4月が大幅減となったため、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比▲2.4%となった。

【対馬ブロック】

韓国人観光客の入込が拡大していることに加え、3月末に新規施設が開業したこともあり、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+75.9%と著しく増加した。

【参考】外国人観光客（宿泊客）の動向

4～6月期全体の外国人宿泊客数は対前年同期比+18.0%と1年ぶりに対前年増となった。

主要な国・地域別に状況を見ると、長崎－ソウル線が運航再開し、対馬への入込が好調な韓国は対前年大幅増となったものの、4期連続で大幅減が続いていた台湾と香港は昨年並みの宿泊客数に留まり、昨年まで好調であった中国は団体客の集客が軟調で2期連続の対前年減となった。

(参考資料)



